

みんなで進めよう環境まちづくり

緑のカーテンの作り方

緑のカーテンは、日射を遮り、植物の蒸散作用で周囲の温度上昇を抑え、冷房の使用抑制になるため、地球温暖化対策につながります。



何を植えますか

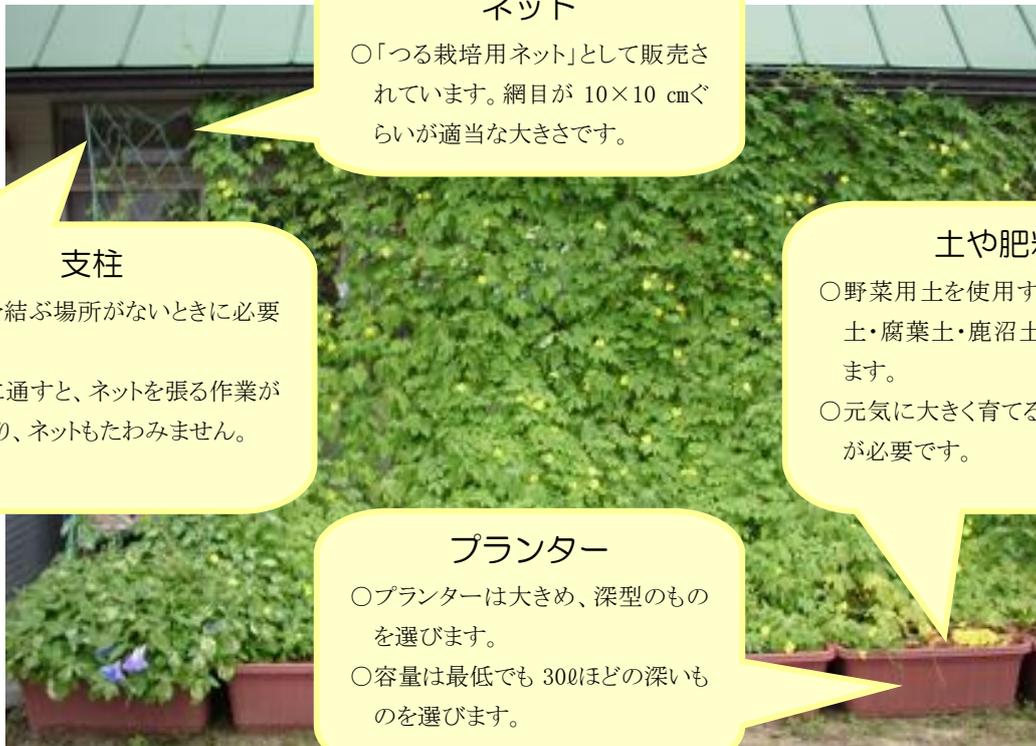
緑のカーテンには、夏にぐんぐん伸び、冬は日ざしを取り入れられるように葉が落ちる1年草のつる性植物が最適です。

おすすめの植物は、ゴーヤ、アサガオ、フウセンカズラ、ヘチマ、ヒョウタンなどです。

今回はゴーヤとアサガオをプランターで育てます。

★準備するもの★

プランター、ネット、土や肥料、支柱、苗や種



ネット

○「つる栽培用ネット」として販売されています。網目が10×10 cmぐらいが適当な大きさです。

支柱

- ネットを結ぶ場所がないときに必要です。
- ネットに通すと、ネットを張る作業が楽になり、ネットもたわみません。

土や肥料

- 野菜用土を使用するか、園芸用土・腐葉土・鹿沼土を混ぜて作ります。
- 元気に大きく育てるために、追肥が必要です。

プランター

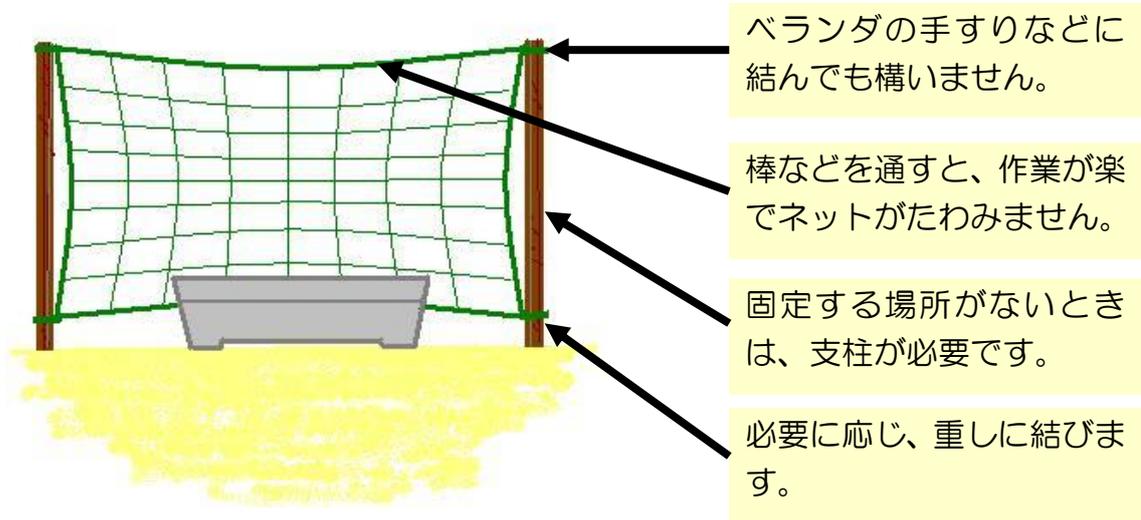
- プランターは大きめ、深型のものを選びます。
- 容量は最低でも30ℓほどの深いものを選びます。

13 気候変動に
具体的な対策を



★ネットはり★

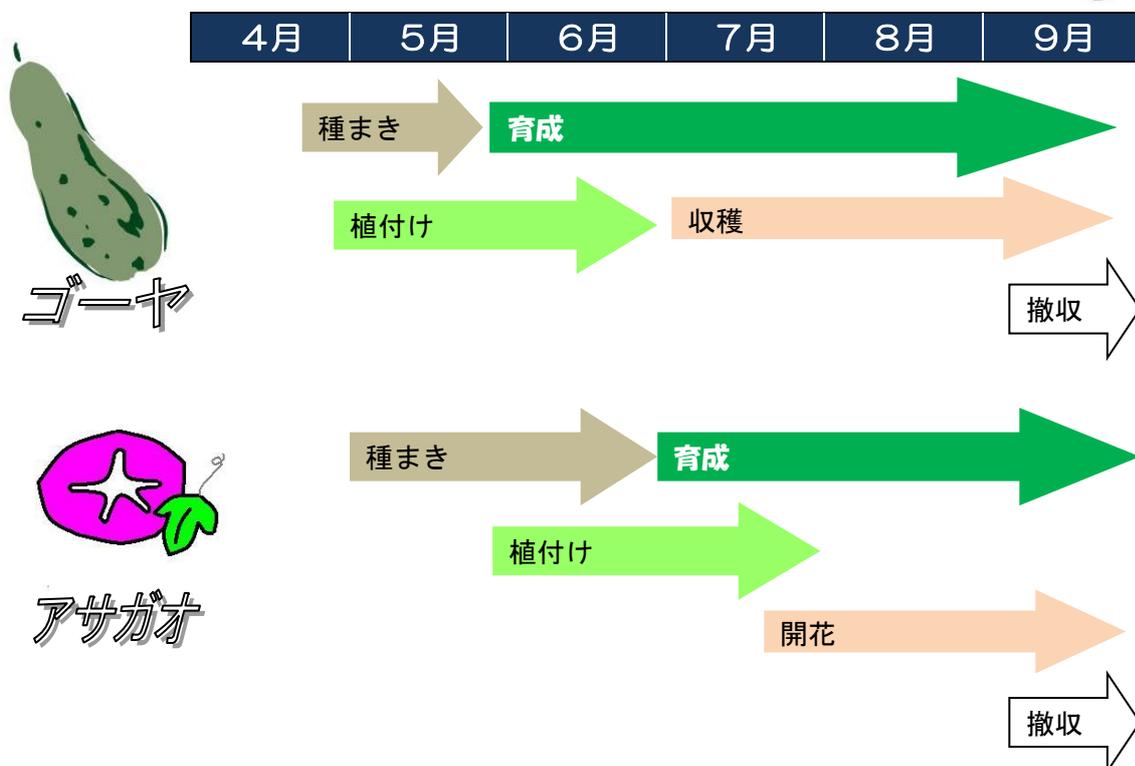
台風などで飛ばされないようにしっかりと固定してください。



※落ち葉等により周囲の迷惑にならない場所に設置しましょう。



★スケジュール★



※ フウセンカズラ、キュウリ、ヘチマ、ヒョウタンは4月頃に種をまきます。

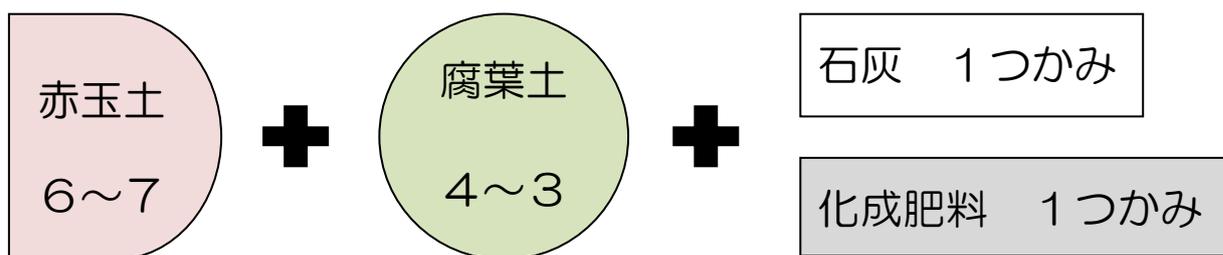


植える2週間前くらい前に…

市販の「野菜用の土」などを使うと便利です。



基本の割合



ポイント!

- ゴーヤは酸性土壌が苦手です。石灰を混ぜて中和します。
- 水はけを良くするためにプランターの底に小石（鉢底石）などを入れます。
- 十分発酵していない油粕や牛糞など有機肥料を使った場合、プランターのなかで発酵が進むことがあります。発酵の熱やガスで苗を傷めます。十分に熟成したものを使いましょう。
- ゴーヤなどのウリ科は、連作障害があります。毎年、土づくりをしましょう。

さらにエコ

◎野菜くずなどの生ごみや、米ぬか、もみがらなどを混ぜて肥料作りをしてみませんか。



ゴーヤを種から育てる

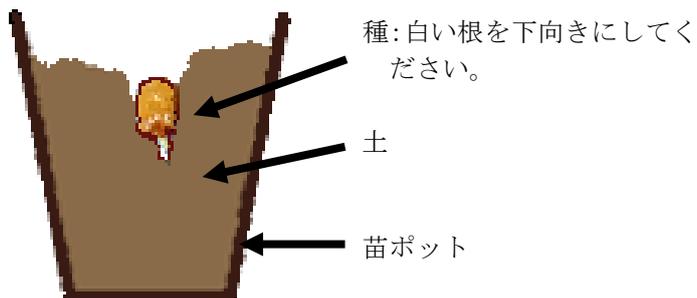
苗からはじめる方が簡単です。

①とがった先を爪切りなどで少しカットします。



②水でヒタヒタにした小皿に入れて発芽を待ちます。
③3～4日で白い根が出てきます。

④土を入れた苗ポットに種を植え、1 cmくらいの土をかぶせます。



ポイント!

- 発芽の適温は、25～30℃です。また、直射日光は避けましょう。温度が低いと発芽しにくいので、ビニールをかぶせるなど、温度を調節します。
- 毎日水やりをしましょう。ただし、水をやりすぎると、種が腐ってしまうことがありますので注意してください。

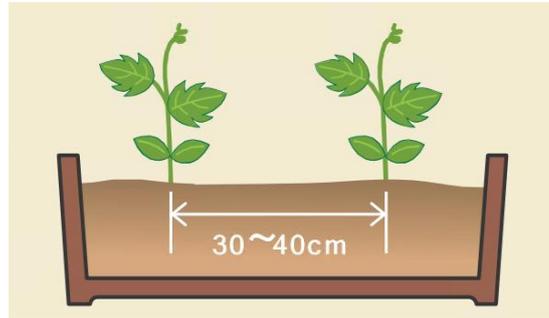
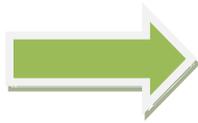
アサガオを種から育てる

①皮が固いので、種をまく前に一晩水につけて吸水させるか、ヤスリなどで表皮を軽く傷つけます。

②土を入れた苗ポットに種を2、3粒まき、1 cm位の土をかぶせます。

発芽の適温は、20℃以上です。7日位で発芽します。





葉が4葉ほど出たらプランターに移植します。

苗と苗の間は30~40cm離して植えます。

ポイント!

- ネットに巻きつきやすくするため、苗の上にネットがくるように植えます。
- 日差しが厳しい時間に植付けすると根腐れしますので、夕方か日差しの弱い時間帯に行いましょう。
- 植付けのときは、たっぷり水をあげましょう。
- 土の上に、ワラや木のチップなどを敷くと、土の乾燥を防ぎます。
- プランターは、ブロックや木、発泡スチロールなどの台の上に置き、風通しを良くしたり、地面からの熱を防ぎましょう。台には、水が貯まらないように、排水口をつけましょう。



ワラなどで土の乾燥を防ぎます。

台の上にプランターを置くことで土の乾燥を防げます。



苗の上にネットがくるように、植えます。

成育段階に合わせて水やりをしましょう。

4月～6月
(植付けから約1か月)
水のあげすぎに注意!

根が地中にしっかりと張る時期は、土の表面が乾いたら、たっぷり水をあげます。この時期に水をあげすぎると根が十分に張らず、乾燥や暑さに弱くなります。

7月
一日1回たっぷり!

7月に入り気温が高くなってきたら、1日1回、朝か夕方にたっぷりの水をあげます。
7月～9月の猛暑時には、朝・夕方の2回の水やりが必要になるときもあります。

7月～9月の猛暑時
一日2回の水やりも!



ポイント!

- たっぷりの水とは、プランターの場合は、底から水がしみ出るまで水をあげることです。
- 昼間の水やりは、葉が煮えてしまうため避けましょう。
- 葉が黄色くなるのは、水不足や肥料不足などが原因です。
- 旅行や外出などで水やりができない場合のために、自動水やり装置を付ける方法があります。簡単なものは、空ペットボトルのふたに穴をあけるか、市販の給水キャップを取り付けて、土に差し込むだけです。電気式の自動水やり装置や底面灌水できるプランターなどもあります。

さらにエコ

◎水やりに雨水やお風呂の残り湯、野菜を洗った水を利用しましょう。



★つるの誘引と摘芯★

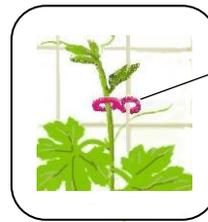
誘引とは、つる性の植物を伸びて欲しい方向に導くことです。

苗を植えた後、親づるの先が上に伸びるように誘引します。

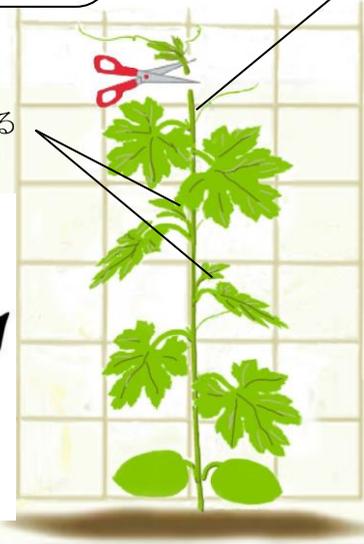
摘芯とは、つるの先端を2～3cm切ること
で、脇から子づる、孫づるが活発に出てきて、ネット全体を覆いやすくなります。

子づるや孫づるも必要に応じて、誘引、摘芯をします。

よく繁ったきれいなカーテンには、誘引や摘芯が必要です。



8の字結び



親づる

子づる

葉っぱが7～8枚のころ、先端を摘芯

ポイント!

○初期のつるは、次第に太くなるので、つるを結ぶ輪は十分ゆとりを持った大きさの「8の字結び」(上図参照)にします。つるがネットに擦れて傷つかないようにします。

○誘引には、ヒモや園芸用結束テープなどを使います。

○はじめのうちは、子づるはななめ上へ誘引します。

○本葉が7～8枚の頃に親づるの先端を摘芯します。

○ネットからはみ出したつるは切ります。

★追肥や中耕★

追肥とは、つるが伸び、花を咲かせ、実をならす時期になると新たに多くの養分が必要になりますので、あらためて肥料を施すことです。

植付けの約1か月後から実施します。固形肥料の場合は1か月に1回、液体肥料の場合は1～2週間に1回の頻度で実施します。

中耕とは、プランター栽培の場合は、土が次第に硬くなり、根が呼吸しづらくなって成育障害が起こる場合があるため、土の表面を軽く耕し、ほぐしてやることです。

水をまいて、なかなか土の中にしみ込まないような場合に実施します。

大きさ2cmくらいの酸素を取り込むための穴を10cm間隔であけることも有効です。



肥料の3元素

チッソ (N)

葉を繁らす

リン (P)

花や実を付ける

カリウム (K)

根を元気に

ポイント!

- 肥料はチッソ、リン、カリウムのバランスが大切です。また、与えすぎは、植物を傷めます。
- 肥料は、株元から20~30 cmほど離れたところにやりましょう。根に直接触れないように。
- ゴーヤやアサガオ用の堆肥も市販されています。
- 表面から根が見えるなど、土が減った場合は土を足しましょう。

さらにエコ

- ◎米のとぎ汁はリン系肥料であり、葉や実を大きく育てます。
(注) 毎日与えると土が硬くなります。

★果実、種の収穫★

ゴーヤの表面のいぼが大きくなったら収穫時です。

黄色くなったゴーヤは栄養価が落ちます。

ゴーヤの種の収穫は、実が割れて、赤い膜に包まれた種がのぞいたら、取り出し、軽く水洗いした後2、3日間、日陰で乾燥させて、涼しいところで保存しておきます。

緑のカーテンで育成できるつる性植物には、フウセンカズラ、ヘチマ、ヒョウタンなどもあります。書籍やインターネットで育て方を調べて、あなたに合った育て方をしてみてください。

緑のカーテンに関するお問い合わせ

春日井市環境部環境政策課

TEL0568-85-6216 Fax 0568-84-8731

e-mail kansei@city.kasugai.lg.jp



©Kasugai City 2008
書のみち春日井「道風くん」